

『見た目 見る眼』

「美 人って、得ね！」

45年ほど前になりますが、今でも鮮明に記憶に残っている何気ない言葉があります。それが、この言葉です。高校3年生の担任だった時、クラスで一番早く就職が決まった女子生徒がいました。国内でもトップクラスの化粧品メーカーの美容部員に内定した時の事です。クラスの女子生徒達がそのことを知り、つい漏らした一言でした。化粧や髪型そして服装は、見た目を整えて相手に好感をもってもらう行為だと思っています。オシャレは自分の為だけではなく、相手を考えて行いで、相手は特定の人もあれば、多くの人の場合もあるかと思っています。デートの時は、自分の為だけを考えるのではなく、相手のことも考えた服装選びをしましょうと、以前何かの雑誌で読んだ記憶があり、なるほどと思いました。初 対面の時は、見た目の第一印象が大事でしょう。もっとも顕著なのは就職の面接。大袈裟かも知れませんが、自分のこれからを左右するかも知れません。

最 近読み終えた東野圭吾の小説「白夜行」。文庫本で3cmほどの分厚い文庫本でした。次々と新たな場面が20年にも及びながら展開し、登場人物も多く、少し間を置いて読み進めると、この人は誰だったか、分からなくなってしまう。前のページを読み返すことを何度もしました。美少女が大人になり、その見た目の美しさをもつて人を欺きながら欲しい物を掴み取って行くストーリー。見た目の美しさとどす黒い内面のギャップ。美しさが正義とは言えないことをまざまざと見せ付けられた内容でした。

あ れは、教員になったばかりのことでした。新採用の学校は全定併設高等学校の定時制課程で、実家から徒歩10分程の所にありました。午後になってから開始される職員会議に間に合うように出勤すれば良かったので、毎日、昼食をとり一時頃に家を出発。家を出て数

分ぐらいの所を歩いていると、路肩に止まった車の中から、二人組みの男性に声を掛けられました。「格安のスーツ、買って頂けませんか」、唐突な呼びかけに吃驚して立ち止まると「三着で〇〇円（金額は忘れてしまいましたが、とても格安）ですが、買って頂けませんか」丁寧な言葉使いで見た目も人の良さそうな二人でしたので、つい話に乗りました。内容はこうです。紳士服を卸しているのだが、今日は三着余ってしまった。このまま持って帰る訳にもいらない。卸値よりも更に安くするので、まとめて買ってくれませんかと言うのです。働き始めたばかりで、スーツも一着しかない時でしたから、これ幸いと買いました。車の窓越しでのやりとりで、今考えれば変な話ですが、安い買い物をしたと思いました。職員会議までは、まだ充分に間があるので、一旦家に買ったスーツを置きに戻りました。袋を開けて吃驚。三着とも全くの粗悪品で着られた物ではなかったのです。

恥 ずかしながら、私は目先の安さに釣られ、社会人になって早々詐欺に引っかけってしまったのです。人は見た目だけで安易に判断できないとつくづくと知らされた出来事でした。

青 森から東京に転居して直ぐ、車に不具合が起きました。何処の整備店が良いのか全く分からず、近くの小さな整備店に行きました。そこは一人でやっている店のようで、油だらけの作業着で出て来た人は、茶髪にピアスのヤンキー風のあまり愛想の良くない三十代と觉しき男性でした。ここに車を入れたのは、まずかったなと思いましたが、入った都合上、修理してもらうことにしました。次の日、車をとりに行くと、愛車はきちんと整備され、料金も良心的でした。見た目とは大違いの腕が確かで気持ちの良い青年でした。その日から車検や修理は全て、そこに頼んでいて既に十年以上の付き合いになりました。良い意味で、人は見掛けによらないと再認識しました。

他 人の「見た目」よりも、自分の他者を「見る眼」を養って行かなければならないと、今もって肝に銘じる私なのです。